

# リニューアルした大温室における いのちの多様性に触れるおもてなし の仕掛けについて

磯部 実・堀川大輔

2018年3月にリニューアルオープンした大温室では、入園者が非日常的な珍しい熱帯植物の多様性を身近に体験できるスロープデッキや展望窓などを取り入れ、様々な高さから植物が身近に観察できる展示手法を取り入れている(磯部ら2019)。リニューアルオープン後2年目を迎え展示植物も大きく育ち始め、新しく開花結実する植物も増えて、展示効果も増してきている(堀川ら2019)。

入園者が展示植物を身近に観察するとともに、さらに楽しく植物について学習・感動し記憶に残る仕掛け作りを進めている。仕掛けは職員による手作りのものと専門業者に委託している物とがあるが、今後これらを礎に仕掛けを発展させていき、入園者をさらに感動・記憶に残るものにするために現在の状況を記録しておく。

## 玄関ロビーでのおもてなしの仕掛け

大温室入口ロビーでは、入園者が大温室の植物はどのようなものがあるかが分かるよう熱帯植物の情報発信の場として工夫を凝らした。

大温室の最新の開花や結実状況を知ることができる見どころマップ(図1A)、モニターによるオーストラリアバオバブの高い枝先についた花のアップ画像や導入時の記録映像(図1B)、熱帯植物の種子などの乾燥標本の展示(図1C)、寄せ植えコチョウラン(図1D)や新品種の観葉植物などを展示し、熱帯の導入部の雰囲気を出した。

## 案内看板、植物説明板の設置

リニューアルオープン時に制作した総合案内板(図2A)やコーナー説明板(図2B、C)の他に特徴的な植物についてその植物の特性などを解説した手作りの説明板(図2D、E、F)を設置し、入園者への植物の理解を深める一助にした。

## 一見してわかる「開花・結実」や「香り」の表示

特に目立ちにくい開花や結実、香りがある植物には「花が咲いています」(図3A、B)、「実がなっています」(図3C、D)、「香りがあります」(図3E)の表示をそれぞれの植物のラベルに表示し、入園者により容易に見つけることができ、観察しやすいように工夫した。

## 体験できる植物標本の展示

展示植物の前で乾燥した果実や乾燥標本を触れたり、香りを嗅ぐという体験をすることで入園者にその植物の特徴が印象に残る工夫をした。

バナナ果実はペットボトルに入れ、小さな穴をあけて香りが嗅げるようにした(図4A)。野生バナナ種子もペットボトルに入れ、身近に見て、振ることによりその大きさや硬さを体験できるようにした(図4B)。ココヤシは乾燥果実を籠に入れ、半割の乾燥果実を吊り下げて自由に触れるようにし、果実外観や内部構造が観察できるようにした(図4C)。バルサ材は乾燥枝を展示しその重さを体験できるようにした(図4D)。デッキブリッジに使用されているイペー材は台上に水の入った容器とともに置き、その重さや水に沈むことが体験できるようにした(図4E)。

## 植物の複製模型(レプリカ)の展示

熱帯の重要な果物であるカカオ(図5A)やゴレンシ(スターフルーツ)(図5B)など結実期が限定される果実や、栽培の困難なラフレシアなど(図5C)、年間を通して生きたものが展示できないものは複製(レプリカ)を展示し、ラテックス製のカカオ果実などは触れるようにし、原物の大きさや重さが体験できるようにした。

## 動物の複製模型(レプリカやぬいぐるみ)の展示

ラテックス製の熱帯産カエルやカメレオンのレプリカは6体ほど入口池付近を中心に温室内の生息しそうな場所に設置し(図6A)、熱帯ジャングルの雰囲気作りを演出した。

ソーセージノキの枝には夜の授粉に関係するぬいぐるみのコウモリを吊り下げ(図6B)、受粉の仕組みをアピールした。熱帯果樹のコーナーにはぬいぐるみのインコを枝に配置し(図6C)、

食用果実の雰囲気を出した。正面入口と熱帯スイレン温室側入り口にぬいぐるみのオラウータンとゴリラを配置し（図6 D、E）、両脇にイスを配置し記念撮影コーナーにした。

### 夜間開園

夏の夜間開園は、9月7日（土）から9月22日（日）までの毎週土・日曜日の6日開催された。夜開性のサガリバナ（図7 A）やゲッカビジン、ヤコウボクなどが夜に正常に開花することができるように、また夜のジャングルの雰囲気を作り出すため通路は見えるように足元灯（柱灯）だけを点灯し、主な室内照明は消し、温室は全体的に暗くした。記念撮影用に設置したオラウータンやゴリラのぬいぐるみは人気があった（図7 B）。オーストラリアバオバブやこの時期のみ開花・結実している珍しい植物（図7 C、D）をライトアップした。夜開性の植物は開花後に照明のスイッチを入れ、ライトアップを図った。

冬の夜間開園は、11月23日（土）から12月22日（日）の毎週土・日曜日の10日開催された。夜開性の植物がないため、遠くから温室の存在が分かり易くするために、温室の主な照明は全灯し、大温室のシルエットが浮かび上がり目立つようにし、大温室正面周辺にもロビー屋根部分やワシントンヤシモドキなどにLED照明をにぎやかになるように設置した（図8 A）。落葉を始めたオーストラリアバオバブの幹やこの時期に開花・結実しているランやバナナ、ブーゲンビレアなどの植物はライトアップ照明を施し（図8 B、C、D）、入園者がより植物が観察しやすいようにした。

入園者に、我々が豊かな生活や暮らしを営むうえで、身近な日用品や食べ物の多くが多様な熱帯植物によって成り立っていることをよりよく理解してもらえるように、大温室は適切な生育状態の植物と展示植物を補うおもてなしの仕掛けでこれからも展示効果を高めていきたいと考えている。

### 参考文献

- 磯部実、高井敦雄、堀川大輔、山本昌生 2019.  
大温室展示施設・植栽再整備と植物展示について. 広島市植物公園栽培記録 40号：19-26
- 堀川大輔、磯部実、高井敦雄、山本昌生 2019.  
大温室の新規導入植物の開花記録 40号：17-18



図1 玄関ロビーでのおもてなしの仕掛け

- A : 最新の見どころマップ    B : 大温室植物撮影ライブカメラや記録映像を放映するモニター  
 C : 熱帯植物の種子など乾燥標本の展示    D : 洋ランの寄せ植え展示



図2 案内板・植物説明板の設置

- A : 総合案内板    B : オーストラリアバオバブの説明板    C : コーナーの説明板    D : コショウ説明板  
 E : ハウガンノキ説明板    F : ヘリコニア説明板



図3 一見してわかる開花・結実状況と香りのある植物への表示  
 A、B：開花の表示 C、D：結実の表示 E：香りの表示

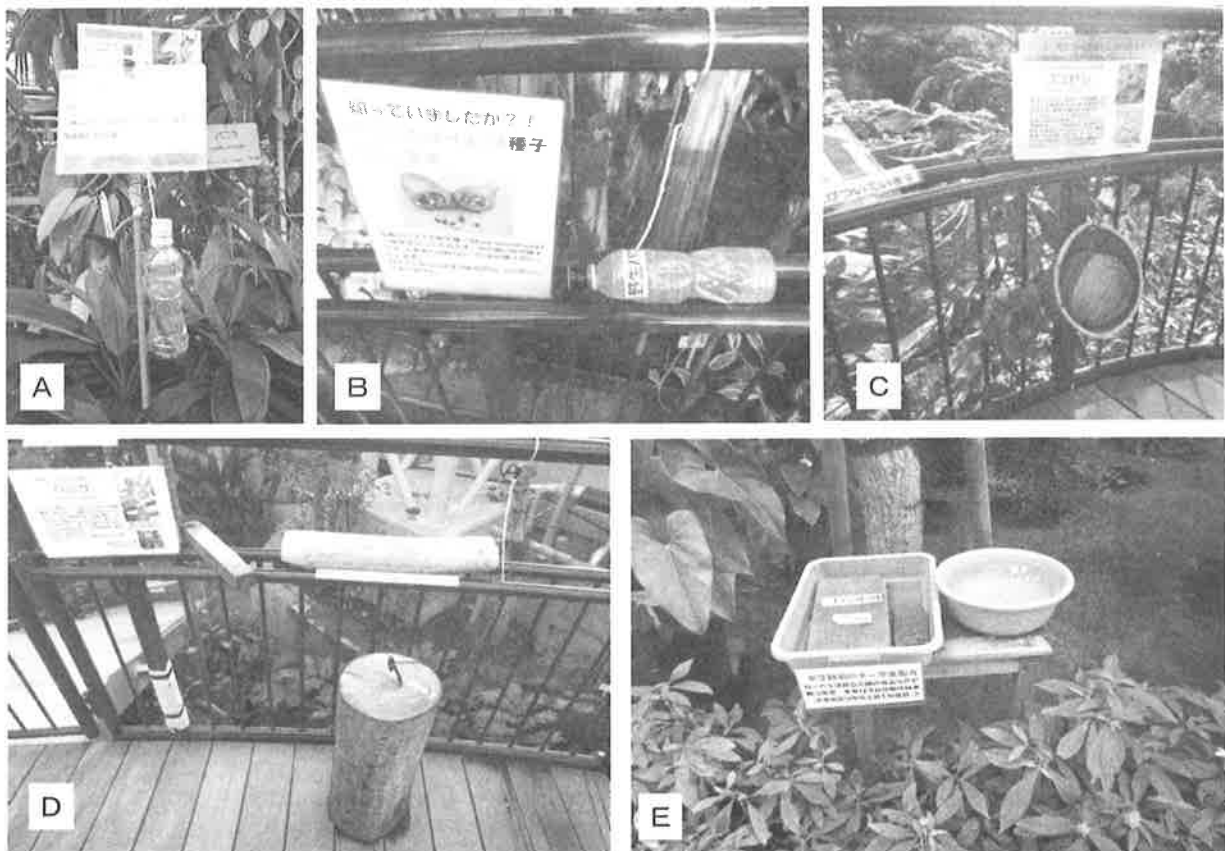


図4 体験できる植物標本の展示  
 A：バナナ種子 B：バニラ果実 C：ココヤシ果実 D：バルサ材 E：イペー材

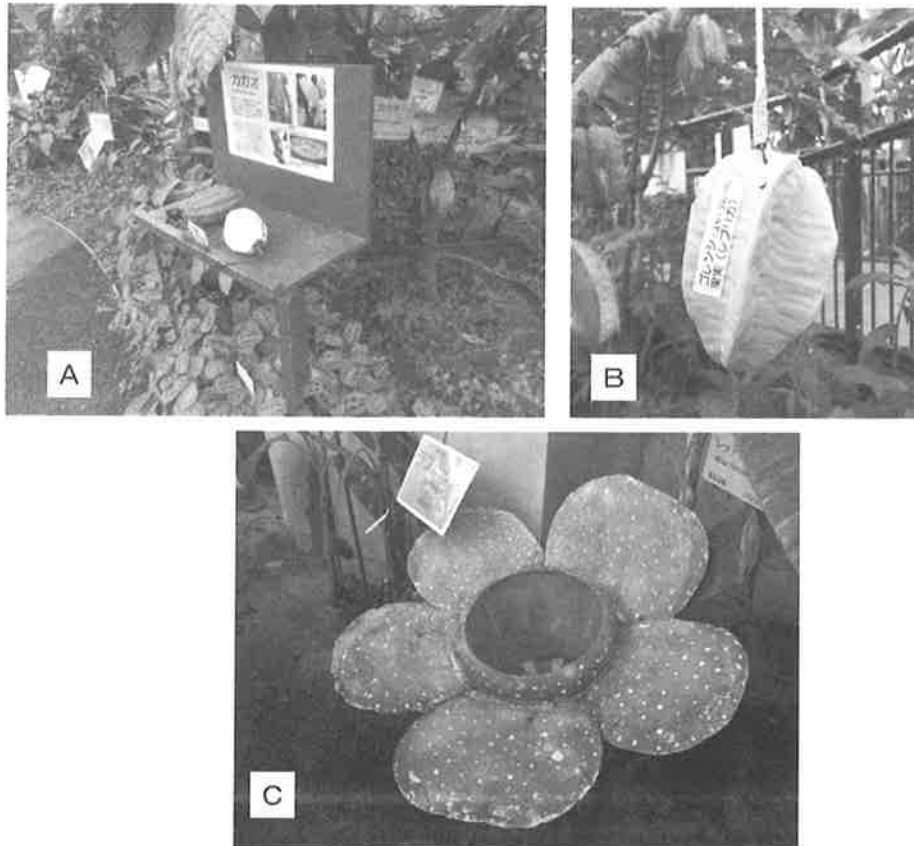


図5 植物複製模型（レプリカ）の展示

A：カカオ果実 B：ゴレンシ（スターフルーツ）果実 C：ラフレシアの花



図6 動物複製模型（ぬいぐるみやレプリカ）の展示

A：熱帯産カエル B：ソーセージノキとコウモリ C：インコ D：オラウータン E：ゴリラ

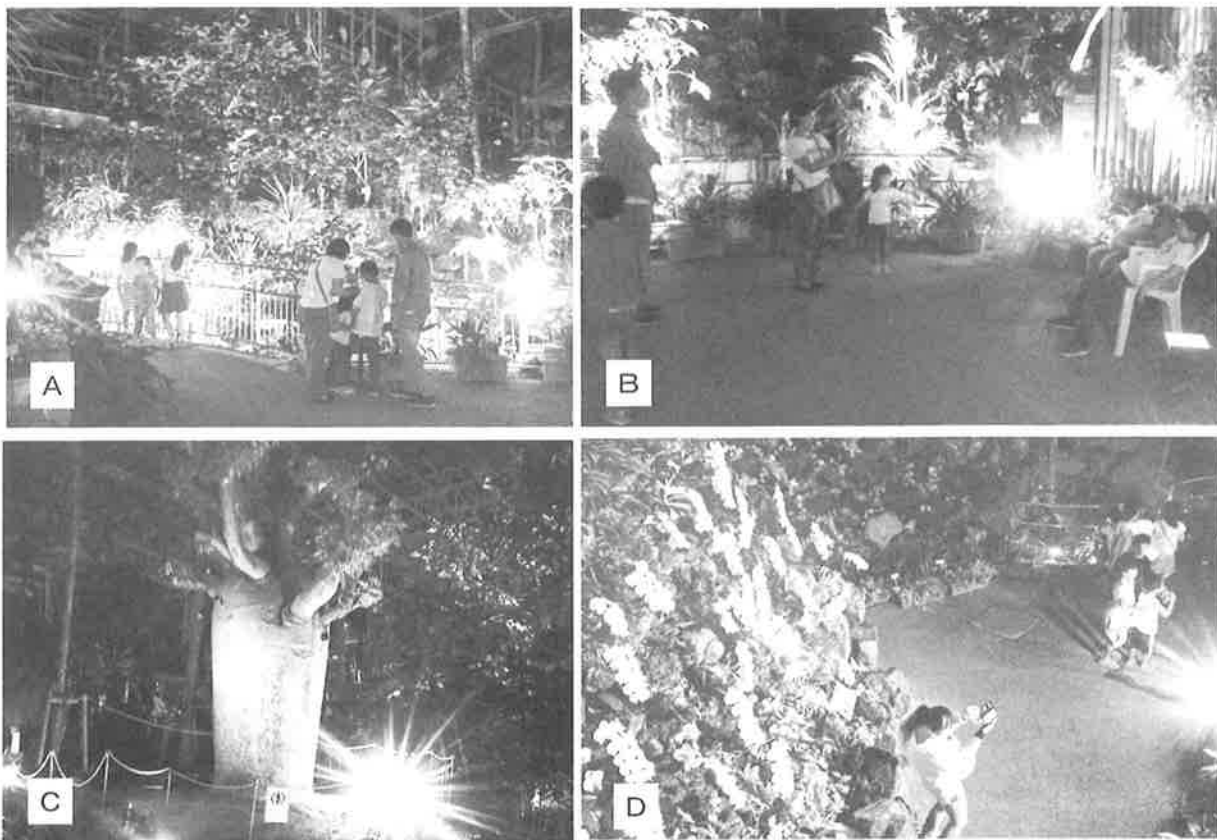


図7 夏の夜間開園の大温室

A：水辺の植物コーナー・夜開性サガリバナ  
C：オーストラリアバオバブのライトアップ

B：ぬいぐるみのオラウータンと写真撮影  
D：東南アジアのランコーナー



図8 冬の夜間開園の大温室

A：大温室正面玄関 B：オーストラリアバオバブ付近 C：中央・南アメリカのラン展示コーナー  
D：デッキ中央付近